

令和 7 年度吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)実施状況

【用語について】

- ・初回/非初回：過去 3 年度以内に、吹田市胃がん検診の胃部エックス線検査及び胃内視鏡検査の検診受診歴がある場合は「非初回」、受診歴がない場合は「初回」に分類

【受診率の算出方法】

全国、大阪府と比較をするため、国が示す方法に基づき算出。

胃がん検診においては、50 歳～69 歳が対象。

- ・対象者数 = 当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率 = $((\text{前年度の受診者数}) + (\text{当該年度の受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度における 2 年連続受診者数})) / (\text{当該年度の対象者数}) \times 100$

【要精密検査者について】(不完全実施は除く)

- ・要精密検査者：胃内視鏡検査は、①内視鏡検診時に生検を受診した者と、②内視鏡検診時には生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者
- ・検診時生検受診者：胃内視鏡検査時に生検を受診した者
- ・検診時生検受診のうち要再検査者：二次読影判定で要再検査(B-3,D)となった者
- ・要精密検査検診時生検未実施：胃内視鏡検査時に生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者
- ・精密検査受診者：検診時の生検の結果の報告があった者、精密検査実施機関から再検査の結果の報告があった者、並びに再検査受診者から受診日、実施機関、検査法及び検査結果の報告があった者
- ・胃がんのうち早期がん：がんの浸潤が粘膜内か粘膜下層に留まるもの。リンパ節転移の有無は問わない。
- ・胃がんの早期がんのうち粘膜内がん：がんの浸潤が粘膜内に留まるもの

【プロセス指標※の算出方法】

- ・要精検率 = $\text{要精検者数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・精検受診率 = $\text{精検受診者数} / \text{要精検者数} \times 100$
- ・早期がん割合 = $\text{早期がん} / \text{がん発見数} \times 100$
- ・がん発見率 = $\text{がん発見数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・陽性反応適中度 = $\text{がん発見数} / \text{要精検者数} \times 100$

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は平成 20 年度に各プロセス指標値の基準値（許容値・目標値）を決定し、令和 5 年度に新たな基準値に改正し、公表している。

1 受診者数

(1) 年次別胃がん検診受診者数及び受診率

表 1-1 令和4年度～令和7年度（4～9月）胃がん検診実績（50～69歳）

50歳～69歳	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度(4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
対象者数 ※)	93,809			96,145			98,605					
受診者数	1,115	685	1,800	1,234	620	1,854	1,209	529	1,738	563	184	747
受診率	2.2%	1.1%	3.3%	2.4%	1.0%	3.4%	2.4%	0.9%	3.3%			
初回受診者数	645	191	836	750	208	958	713	164	877	307	53	360
初回の割合	57.8%	27.9%	46.4%	60.8%	33.5%	51.7%	59.0%	31.0%	50.5%	54.5%	28.8%	48.2%

※) 対象者数は年度末人口で集計

表 1-2 令和4年度～令和7年度（4～9月）胃がん検診実績（全年齢）

全年齢	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度(4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
受診者数	1,636	1,104	2,740	1,859	1,003	2,862	1,874	861	2,735	853	314	1,167
初回受診者数	871	245	1,116	1,037	253	1,290	996	203	1,199	404	70	474
初回の割合	53.2%	22.2%	40.7%	55.8%	25.2%	45.1%	53.1%	23.6%	43.8%	47.4%	22.3%	40.6%

《参考》令和4年度受診率比較（50～69歳）

	全国 ¹⁾	大阪府 ²⁾	吹田市
受診率	6.9%	4.3%	3.3%

出典：1)令和4年度地域保健・健康増進事業報告

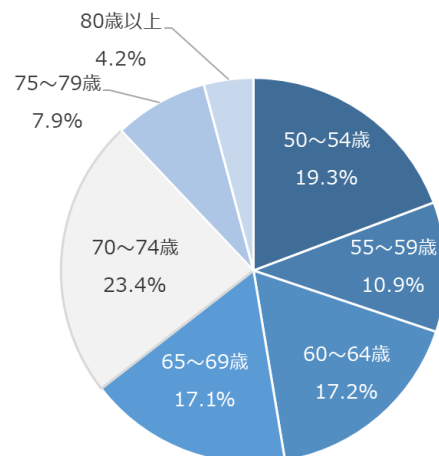
2)大阪府健康医療部作成「大阪府におけるがん検診」

【結果】

- 令和6年度の50～69歳の受診率は、胃内視鏡検査・エックス線検査を合わせると3.3%であった。令和4年度以降受診率はほぼ横ばいであり、令和4年度について全国・大阪府と比較すると低い（表1-1）。
- 胃内視鏡検査の50-69歳の受診率は、令和4年度以降ほぼ横ばいである。対してエックス線検査の50-69歳の受診率は、年々減少している（表1-1）。
- 令和4年度以降、エックス線検査受診者数を胃内視鏡検査受診者数が上回っている（表1-1・表1-2）。
- 各年度ともに初回受診者の割合は、エックス線検査と比べて胃内視鏡検査で高い。（表1-1・1-2）

表 1-3 令和6年度胃がん検診(胃内視鏡検査)性別年齢階級別受診者数

年齢階級	受診者数(人)			割合
	男性	女性	合計	
50～54歳	95	266	361	19.3%
55～59歳	54	150	204	10.9%
60～64歳	106	217	323	17.2%
65～69歳	133	188	321	17.1%
70～74歳	206	233	439	23.4%
75～79歳	68	80	148	7.9%
80歳以上	36	42	78	4.2%
合計	698	1,176	1,874	100.0%



【結果】

- 令和6年度の胃内視鏡検査での男女別受診者数を比較すると、男性は70～74歳が206人と最も多く、次いで65～69歳が多い。女性は、50～54歳が266人と最も多く、次いで70～74歳が多い。
- 男女別では男性698人、女性1,176人で女性は男性の約1.7倍多く受診している。

(2) 年次別胃がん検診性別、内視鏡検査・エックス線検査別年齢階級別受診率及び受診者数
 (受診率は内視鏡検査とエックス線検査を単純に比較するため、当該年度の対象者で算出したものとする)
 図1・2 胃がん検診(内視鏡検査)年齢階級別受診者数

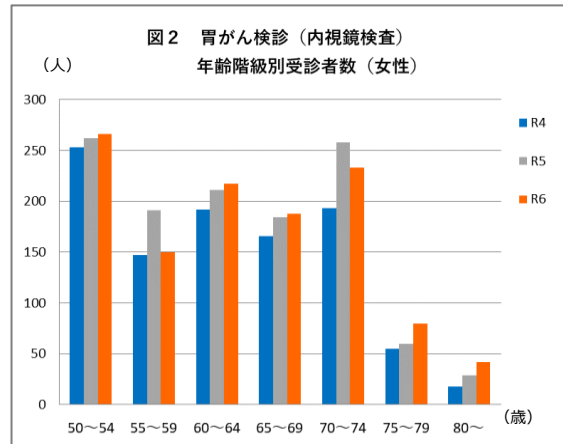
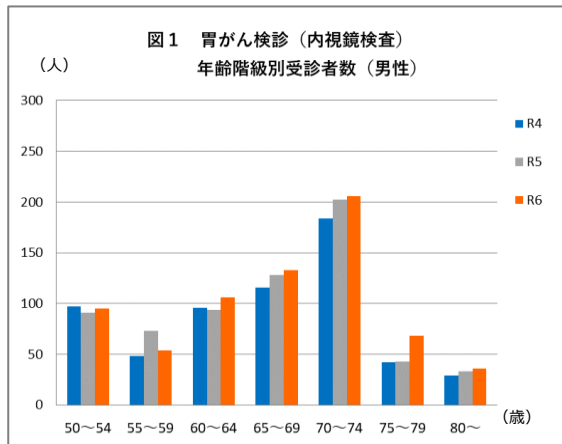
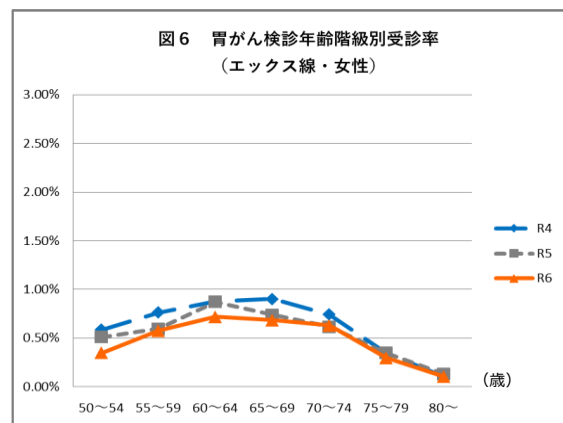
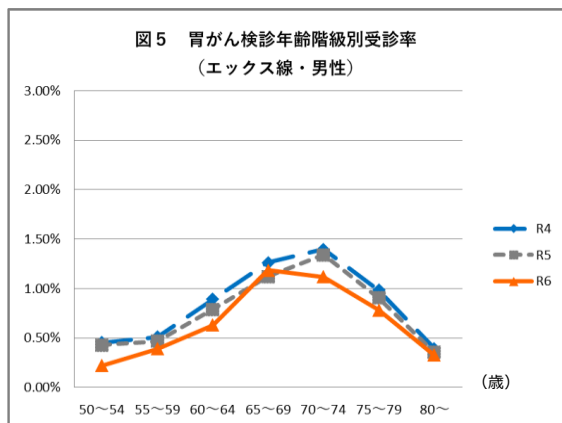
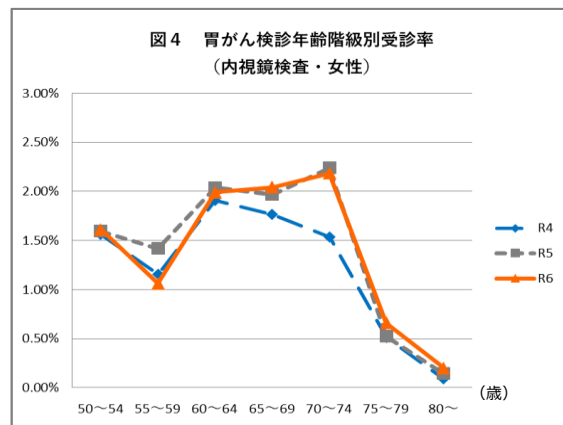
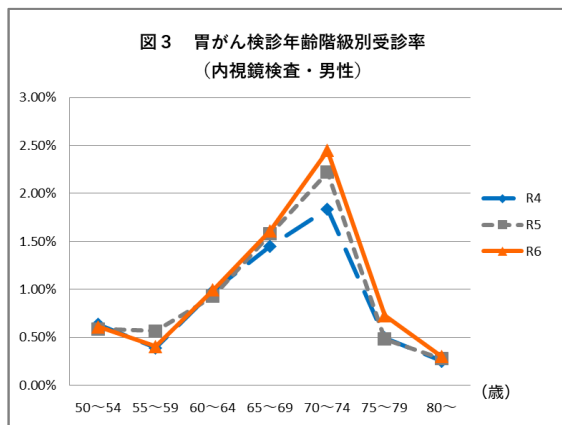


図3~6 胃がん検診(内視鏡検査・エックス線検査)年齢階級別受診率



【結果】

- ・胃内視鏡検査の受診者数を年齢階級別に受診年度で比較すると、男性は65歳から74歳までの年代で年々増加傾向にある。女性は50-54歳で増加傾向にあり、他の年代では年度により偏りがあった。(図1・図2)。
- ・同様に受診率を年齢階級別に受診年度で比較すると、胃内視鏡検査は男性では65歳以上の年代で増加傾向にあった。女性は昨年度同様、60歳から74歳までの年代で受診率が高い傾向にある。(図3・図4)。
- ・エックス線検査については男女共にほぼすべての年代で減少傾向である(図5・図6)。

2 生検

表 2-1 令和 6 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施状況

	受診者数	生検なし	生検あり	生検結果 (Group分類)										胃部以外		
				胃部	生検結果 (Group分類)								不明	食道	十二指腸	その他
					Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X						
人数	1,874	1,678	196	174	153	2	2	4	4	0	9	22	16	5	1	
割合	100.0%	89.5%	10.5%	9.3%	87.9%	1.1%	1.1%	2.3%	2.3%	0.0%	5.2%	-	-	-	-	

表 2-2 令和 7 年度(4~9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施状況

	受診者数	生検なし	生検あり	生検結果 (Group分類)										胃部以外		
				胃部	生検結果 (Group分類)								不明	食道	十二指腸	その他
					Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X						
人数	853	766	87	74	68	3	1	0	2	0	0	13	7	6	0	
割合	100.0%	89.8%	10.2%	8.7%	91.9%	4.1%	1.4%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	-	-	-	-	

Group 1 : 正常組織および非腫瘍性病変 Group 2 : 腫瘍(腺腫または癌)か非腫瘍性か判断の困難な病変
 Group 3 : 腺腫 Group 4 : 腫瘍と判定される病変のうち、癌が疑われる病変
 Group 5 : 癌 Group X : 生検組織診断ができない不適材料

【結果】

・生検率は令和 6 年度 10.5% (表 2-1)、令和 7 年度 (4~9 月) 10.2% (表 2-2) で、生検目標値達成に至らなかった。胃部以外で実施した生検結果を除くと、生検率は令和 6 年度 9.3%、令和 7 年度 (4~9 月) 8.7% で、生検目標値を達成している。

《参考》胃内視鏡検査の許容値

生検目標値	10%以下
-------	-------

出典：対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル (2017 年発行)

3 読影判定

表 3-1 令和 6 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	1,677	0	0	0	0	0	1,677
	B	10	1	148	0	0	0	159
	C	10	0	2	0	26	0	38
総計		1,697	1	150	0	26	0	1,874

表 3-2 令和 7 年度(4~9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	764	0	0	0	1	0	765
	B	0	0	68	0	0	0	68
	C	1	0	1	0	18	0	20
総計		765	0	69	0	19	0	853

A 異常なし B 胃がんを疑う所見あり
 B-1 当日生検なし、胃がんを疑う所見あり B-2 当日生検あり、生検部位に胃がんを疑う所見あり
 B-3 当日生検あり、生検部位以外に胃がんを疑う所見あり
 C 胃がん以外の悪性疾患またはその疑い D 読影部位が不足しているため判定不能

【結果】

・D 判定(読影部位が不足しているため判定不能)の者は、令和 6 年度、令和 7 年度 (4~9 月) とともに 0 人であった。

4 要精検者について

(1) 50～69歳の年次別要精検者の状況

表4-1 年次別胃がん検診(胃内視鏡検査・エックス線検査)要精検者内訳【50～69歳】

	令和4年度					令和5年度					令和6年度					令和7年度(4～9月)					
	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	
	生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			
受診者数	1,115			685	1,800	1,234			620	1,854	1,209			529	1,738	563			184	747	
要精検者数	95	2	97	28	125	105	2	107	44	151	107	0	107	14	121	50	0	50	11	61	
精検受診者数	95	2	97	26	123	105	2	107	38	145	107	0	107	13	120	48	0	48	5	53	
要精検率	5.8%	0.1%	5.9%	2.5%	6.9%	5.6%	0.1%	5.8%	4.4%	5.3%	5.7%	0.0%	5.7%	1.6%	4.4%	5.9%	0.0%	5.9%	3.5%	5.2%	
精検受診率	100.0%	100.0%	100.0%	92.9%	98.4%	100.0%	100.0%	100.0%	86.4%	96.0%	100.0%	0.0%	100.0%	92.9%	99.2%	96.0%	0.0%	96.0%	45.5%	86.9%	
精 検 結 果 内 訳 (人)	異常なし	11	0	11	3	14	2	0	2	0	2	6	0	6	1	7	2	0	2	0	2
	胃がん	2	0	2	0	2	0	0	0	1	1	5	0	5	0	5	0	0	0	0	0
	胃がん疑い	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	胃がん以外の疾患	82	2	84	23	107	102	2	104	37	141	95	0	95	12	107	46	0	46	5	51
	胃ポリープ	13	0	13	8	21	16	1	17	5	22	8	0	8	3	11	8	0	8	1	9
	胃・十二指腸潰瘍(癒痕含む)	8	0	8	3	11	4	0	4	5	9	6	0	6	0	6	5	0	5	0	5
	胃びらん	23	1	24	0	24	34	1	35	1	36	32	0	32	1	33	11	0	11	1	12
	胃炎	23	1	24	9	33	28	0	28	20	48	24	0	24	7	31	9	0	9	2	11
	その他	15	0	15	3	18	20	0	20	6	26	25	0	25	1	26	13	0	13	1	14
	未受診/未把握	0	0	0	2	2	0	0	0	6	6	0	0	0	1	1	2	0	2	6	8
がん発見率	0.18%	0.00%	0.18%	0.00%	0.11%	0.00%	0.00%	0.00%	0.16%	0.05%	0.41%	0.00%	0.41%	0.00%	0.29%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
陽性反応適中度	2.11%	0.00%	2.06%	0.00%	1.60%	0.00%	0.00%	0.00%	2.27%	0.66%	4.67%	0.00%	4.67%	0.00%	4.13%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	

【結果】

- 胃内視鏡検査の要精検率は、令和4年度以降基準値7.1%以下を満たしている。(令和7年度は途中経過)
令和4年度以降、精密検査の未受診者0人、精検受診率100%で基準値を満たしている。
- 胃内視鏡検査のがん発見率は、令和4年度0.18%、令和6年度0.41%と基準値を満たしている。陽性反応適中度も同様に、令和4年2.06%、令和6年4.67%と基準値を満たしている。令和5年度は、胃がん0名のため、がん発見率と陽性反応的中度はいずれも0%である。
- エックス線検査は、要精検率は各年度とも基準値を満たしている。精検受診率は、令和5年度のみ86.4%と基準値を満たしていない。令和4年度から令和6年度で胃がんが発見されたのは、令和5年度の1名のみであり、令和5年度はがん発見率0.16%、陽性反応的中度2.27%といずれも基準値を満たしている。

「参考」精度管理指標と基準値(50～69歳)

	検診間隔2年	検診間隔1年
要精検率	7.1%以下	7.0%以下
精検受診率	90%以上	90%以上
がん発見率	0.13%以上	0.08%以上
陽性反応適中度	1.9%以上	1.1%以上

出典：厚生労働省 令和6年7月 がん検診のあり方に関する検討会

(2) 全年齢の年次別要精検者の状況

表4-2 年次別胃がん検診(胃内視鏡検査・エックス線検査)要精検者内訳【全年齢】

	令和4年度					令和5年度					令和6年度					令和7年度(4~9月)					
	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	
	生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			
受診者数	1,636			1,104	2,740	1,859			1,003	2,862	1,874			861	2,735	853			314	1,167	
要精検者数	141	3	144	57	201	188	3	191	74	265	196	0	196	41	237	87	0	87	18	105	
精検受診者数	141	2	143	54	197	188	3	191	65	256	196	0	196	37	233	81	0	81	9	90	
要精検率	8.6%	0.2%	8.8%	5.2%	7.3%	10.1%	0.2%	10.3%	7.4%	9.3%	10.5%	0.0%	10.5%	4.8%	8.7%	10.2%	0.0%	10.2%	5.7%	9.0%	
精検受診率	100.0%	66.7%	99.3%	94.7%	98.0%	100.0%	100.0%	100.0%	87.8%	96.6%	100.0%	0.0%	100.0%	90.2%	98.3%	93.1%	0.0%	93.1%	50.0%	85.7%	
精検結果内訳(人)	異常なし	16	0	16	5	21	4	1	5	1	6	10	0	10	4	14	2	0	2	2	4
	胃がん	4	0	4	1	5	2	0	2	1	3	10	0	10	2	12	2	0	2	0	2
	胃がん疑い	0	0	0	0	0	4	0	4	0	4	3	0	3	0	3	2	0	2	0	2
	胃がん以外の疾患	121	2	123	48	171	178	2	180	63	243	173	0	173	31	204	75	0	75	7	82
	胃ポリープ	19	0	19	16	35	31	1	32	9	41	14	0	14	7	21	13	0	13	1	14
	胃・十二指腸潰瘍(癒痕含む)	12	0	12	5	17	13	0	13	8	21	13	0	13	1	14	7	0	7	0	7
	胃びらん	35	1	36	0	36	56	1	57	1	58	68	0	68	1	69	22	0	22	1	23
	胃炎	36	1	37	21	58	46	0	46	32	78	38	0	38	17	55	16	0	16	3	19
	その他 ※)	19	0	19	6	25	32	0	32	13	45	40	0	40	5	45	17	0	17	2	19
未受診/未把握	0	1	1	3	4	0	0	0	9	9	0	0	0	4	4	6	0	6	9	15	
がん発見率	0.24%	0.00%	0.24%	0.09%	0.18%	0.11%	0.00%	0.11%	0.10%	0.10%	0.53%	0.00%	0.53%	0.23%	0.44%	0.23%	0.00%	0.23%	0.00%	0.17%	
陽性反応適中度	2.84%	0.00%	2.78%	1.75%	2.49%	1.06%	0.00%	1.05%	1.35%	1.13%	5.10%	0.00%	5.10%	4.88%	5.06%	2.30%	0.00%	2.30%	0.00%	1.90%	

※) 胃以外の悪性疾患内訳

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度(4月~9月)	
	内視鏡検査	エックス線検査	内視鏡検査	エックス線検査	内視鏡検査	エックス線検査	内視鏡検査	エックス線検査
食道癌	1	0	2	0	2	0	0	0
十二指腸癌	0	0	2	0	0	0	0	0
MALTリンパ腫	0	0	0	0	1	0	0	0
肺癌胃壁転移疑い	0	0	0	0	0	0	1	0
詳細記載なし	1	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	4	0	3	0	1	0

《参考》令和4年度(全年齢)

全年齢	大阪府			吹田市		
	内視鏡	エックス線	総計	内視鏡	エックス線	総計
要精検率	12.3%	4.9%	7.1%	8.8%	5.2%	7.3%
精検受診率	99.4%	84.5%	92.1%	99.3%	94.7%	98.0%
がん発見率	0.48%	0.14%	0.24%	0.24%	0.09%	0.18%
陽性反応適中度	3.9%	2.9%	3.4%	2.78%	1.75%	2.49%

出典：大阪府健康医療部作成「大阪府におけるがん検診」

《参考》精度管理指標と基準値(50~74歳)

	検診間隔2年	検診間隔1年
要精検率	7.7%以下	7.6%以下
精検受診率	90%以上	90%以上
がん発見率	0.19%以上	0.11%以上
陽性反応適中度	2.5%以上	1.5%以上

出典：厚生労働省 令和6年7月 がん検診のあり方に関する検討会

5 精密検査結果が胃がんであったケースの詳細

令和6年度胃内視鏡検査において、「胃がんまたは胃がん疑い」と診断された者は13名であった。

個人情報保護の観点により、詳細な内容は非公開とします。

6 検診実施医療機関別プロセス指標

個人情報保護の観点により、詳細な内容は非公開とします。